

事業年度：令和元年度

事業テーマ：レーザー加工内製化での顧客満足度向上・売上拡大／新規分野参入

企業概要

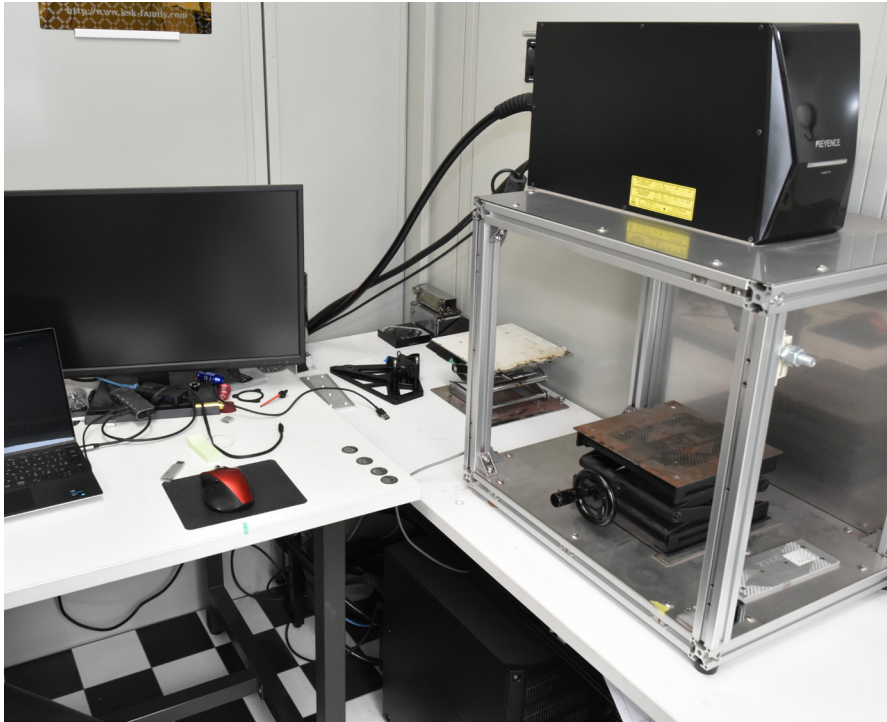


自動車のオリジナルカスタマイズを専門とする。お客様の理想を形にするため、高い技術力で鈑金塗装に加え、エアロパーツの加工・ワンオフ製作、内装張り替えなど、多岐にわたるカスタムに対応している。車種に合わせたオリジナルエアロパーツも販売し、レーザーマーキング受託加工事業「GOOD LINE」では、1個からの精密なカスタマイズ加工も提供。車両からパーツまで、お客様のこだわりを追求したオーダーメイドのソリューションを実現する。

	株式会社 K.S.K
	代表取締役 山口圭介
	2008年12月
	〒243-0803 神奈川県厚木市山際 518-1
	1名
	500万円
	046-210-4994
	自動車整備業
	WEBサイト https://www.ksk-family.com https://ksk-brand.shop/ https://goodline-laser.com/

取材の現場から

外注に頼っていた加工工程を自社完結へと転換したことで、単なる効率化にとどまらず、社員の創造性と顧客との関係性にも変化が生まれた。「好きな仕事を長く続けられるように、無理のないものづくりへ転換したい」と山口社長は話す。補助金は現場の行動を変える契機となり、社員自らが新しい技術を学び、提案し、形にしてい



導入したレーザー加工機



左/当社が手がけたカスタムカーは多くの受賞歴を持つ
右下/代表取締役の山口 圭介氏



右上/車種専用設計のカスタムパーツ

愛好家の集まりで受注も

工程のデザイン作業も内製化を進めデータ作成を学びました。これにより社員のデザインスキルが磨かれ、マフラーの刻印やピラー部の装飾はもちろん、名刺・Tシャツ・タオルなどのデザイン制作まで内製化比率が向上しました。

レーザー加工の内製化は効率化にとどまらず、社員の成長と新しい人脈を生み出しました。特に社員が愛好家の集まりを通じてカスタムパーツの相談を受けるようになり、自然と新しい仕事につながっています。一方で、若者の車離れやイベント減少など、業界全体の変化も感じています。今後は、修理やカスタムに加えて、オリジナルパーツの製造・販売など「物販型のビジネス」を強化していきたいと考えています。製作現場は体力が求められますが、体への負担が少なく、長く続けられるものづくりへシフトすることが、次世代に技術と情熱をつなぐ道でもあります。好きな仕事を無理なく続けられる環境づくりを通じ、これからも新しい価値を発信していきたいと思っています。

事業者名：株式会社 K.S.K



カスタムカーでオーナーの個性を形にしている

補助事業のきっかけ

・当社は自動車の鈑金塗装・カスタム事業を手がけ、エアロパーツやオールペイントなど“個性を形にする”車づくりを全国から受注。カスタムカーイベントでのつながりや口コミで顧客が広がり、全国から注文が入る体制に成長。
・一方で、マフラー刻印などのレーザー加工を外注していたが、仕上がりの不一致や外注先の高齢化によるトラブルが発生。品質維持と納期短縮のため、自社で加工まで完結する体制を構築する必要があった。

事業計画の概要

・ものづくり補助金を活用し、3D対応・30×30ワイド仕様のレーザー加工機を導入。
・外注費削減と自社製品の開発を目的に、加工からデザインまで一貫した生産体制を確立。

事業化状況

・部品加工の内製化により品質が安定、同業者からの外注依頼も獲得。社員の人脈を通じて新規受注が拡大し、社員のスキルアップも進展中。
・設備稼働率の波はあるが、事業計画に沿って収益基盤の確立を進めている。

設備投資を決めたきっかけは、外注していたレーザー刻印のトラブルでした。仕上がりが想定と違うことが続き、品質を守るため設備投資を思案していたところ、同業の仲間から「設備を導入したら加工を任せたい」という声もあり、確かな需要を見据えて決断しました。補助金の支援を受け、3D対応・ワイド仕様のレーザー加工機を導入しました。導入後は、レーザー加工機の稼働率を高めるため、前

Case

5

外注依存からの脱却でカスタム技術を磨き上げる内製化の実現

全国のカスタムカー愛好家から支持を集める鈑金塗装メーカー、K.S.K。外注していたレーザー加工を自社で手がけるため、ものづくり補助金を活用し新設備を導入した。品質と効率の両立に加え、社員が自らデザインを担う創造的な生産体制を実現している。

外注依存からの脱却

当社は自動車の鈑金塗装・カスタム事業を手がけています。カスタムカーに関してはエアロパーツの塗装・取付やオールペイントなど、オーナーの個性を形にするのが仕事です。カスタムカーは「自分のため」だけでなく、「人に見せたい」という思いが原動力になります。私自身もドレスアップコンテストの司会としてイベントに参加しており、会場では来場者から「自分の車もこんなふうにした」と相談を受けることもありま